

科目名		身体障害治療学Ⅱ		授業の種類	講義	講師名		
授業回数	8回	時間数	15時間 (1単位)	配当学年・時期	作業療法士科3年		必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕								
各疾患による様々な障害に対する作業療法の知識や技術について学習・習得する。								
〔授業全体の内容の概要〕								
身体障害に対する各期（急性期・回復期・維持期）の評価法を確認し、問題点となる障害に合わせた治療介入や訓練内容を考え、組み立てられる。また身体障害に対する支援（日常生活・社会生活・就労など）方法についても考えられる。								
〔講師の実務経験〕								
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕								
作業療法で関わる様々な疾患の治療原理を理解し、治療手技を習得する。								
回数	講義内容							
1	身体機能障害の治療原理 神経変性疾患①パーキンソン病の評価と治療（病態・症状・介入について）							
2	身体機能障害の治療原理 神経変性疾患②脊髄小脳変性症の評価と治療（病態・症状・介入について）							
3	身体機能障害の治療原理 神経変性疾患③筋萎縮性側索硬化症の評価と治療（病態・症状・介入について）							
4	身体機能障害の治療原理 神経筋疾患①ギランバレー症候群の評価と治療（病態・症状・介入について）							
5	身体機能障害の治療原理 神経筋疾患②多発性硬化症の評価と治療（病態・症状・介入について）							
6	身体機能障害の治療原理 神経筋疾患③重症筋無力症の評価と治療（病態・症状・介入について）							
7	身体機能障害の治療原理 内部障害の評価と治療（病態・症状・介入について）①							
8	身体機能障害の治療原理 内部障害の評価と治療（病態・症状・介入について）② ・ まとめ							
	定期筆記試験							
【 準備学習・時間外学習 】								
【 使用テキスト 】								
書籍名				著者名		出版社		
作業療法学ゴールド・マスター・テキスト身体障害作業療法学 改定第2版						メジカルビュー		
【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】								
履修規定に準じ、試験の結果を100点満点として60点以上の場合に合格とする								